

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

二兎を狙い（1年生）、二兎を追い（2年生）、二兎を獲る（3年生）～希望進路の実現100%と自主活動の取組み100%～

- 1 第一希望の進路を実現する確かな学力を養成する。
- 2 さまざまな自主活動の体験を通して、しっかりした人権意識とグローバルな視点をはぐくみ、高い志を抱いて社会に貢献する人材を育成する。
- 3 芸能文化の学びの中で新たな自分を発見し、大阪の文化の発展に寄与できる人材を育成する。

## 2 中期的目標

## 1 進路を実現する確かな学力の養成

## (1) 生徒が生き生きと学ぶ授業づくり

- ア 生徒が生き生きと取り組む魅力ある授業づくりのために、研究授業、学校教育自己診断、授業アンケート等を効果的に活用する。
- イ ICTを活用した授業を全教科で行い、進路実現とこれからの時代に求められる、知識・技能とそれを基にした思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成する。
- ウ 一人ひとりの生徒のニーズにできるだけ応えるため、習熟度別授業、選択科目の充実を図る。

## (2) 一人ひとりの生徒の希望の進路を実現する。

- ア 大学関係者による講演や大学見学など、進路について考える機会を用意し、希望の進路を実現する強い意志を育む。
- イ 年間を通じた自習室運営、長期休業中の学習マラソンなどに学校組織として取り組み、生徒一人ひとりの学習習慣の確立を図る。
- ウ 外部機関を活用して効率的に情報収集、情報分析を行い、新大学入試に向けて生徒支援のための情報共有を進める。

- \* 令和元年度入試結果（国公立28名、関関同立91名（現役9クラス））を令和4年度入試で国公立大学30名以上（H29:22名、H30:21名、R1:28名）、関関同立合格150名以上（H29:147名、H30:122名、R1:91名）（現役8クラス）とする。

## (3) 生徒の心身の健康を育み、学力向上の土台作りをする。

- ア 遅刻・欠席を少なくするなど基本的な生活習慣及び自律的で規律ある生活態度を確立する。
- イ 生徒が心身の健康を保ち安心して安全な学校生活を送れるよう、教育相談体制のもと学校保健の取組みの充実を図る。
- ウ 生徒が自己や社会の在り方に関心を持ち、考え抜く力を養うための方法として読書に取り組めるよう、図書館の充実と読書啓発を進める。
- エ 災害や重大な事象に備えた危機管理体制を確立し、安全で安心な学びの場づくりを進める。

## 2 自主活動の充実

## (1) 生徒会活動をはじめとする自主活動の充実

- ア 体育祭を本校生徒会における最大の行事として位置づけ、本校独自の学年縦割り組織により生徒による自主的な運営の充実を図る。
- イ 文化祭における3学年それぞれの取組みの充実を図る。
- ウ 生徒が積極的にかつ安全に部活動に取り組めるよう、指導者の確保や環境整備に努める。
- \* 生徒向け学校教育自己診断における学校満足度を100%に近づける。

## (2) 外部連携とボランティア活動の充実

- ア チャリティーマラソンの実施（国内被災地やネパールへの支援）をはじめボランティア活動を積極的に推進する。
- イ 芸能文化科による和文化の普及継承に取り組む小高連携授業や、部活動・教科活動における異校種間の交流・連携、地域連携などを継続する。

## 3 人権教育、キャリア教育、国際理解教育の充実

## (1) 自他を尊重することのできる幅広い人権教育に計画的に取り組む。

- ア 令和2年度からの共生推進教室設置によりあらゆる教育活動において「ともに育ち二兎を獲る」教育を推進する。

## (2) 「総合的な探究の時間」等を活用し、自らの将来に希望を持ち自己実現に向けて努力を重ねることができるよう、キャリア教育を計画的に推進する。

## (3) 他者への思いやりと貢献意欲を強く持ち、行動に移すことのできる、地域社会・国際社会で必要とされる人材を育成する。

- ア 海外への修学旅行や海外研修を経験することで、国際語である英語の習得意欲を喚起するとともに、国際社会に生きる人材として異文化体験を通じてグローバルな視点を養う。
- イ 国際社会における意思疎通の手段の一つとして重要な位置を占める英語でのコミュニケーション能力を高めるため、授業・補習にとどまらず、朝のHRを利用した英単語テスト、英語学力調査、外国語指導者の効果的な活用など様々な取組み等を積極的に推進する。

- \* 英語学力調査は平成30年度から全員が教育産業による4技能校内受験を実施、令和4年度の4技能平均CEFR B1以上を目標とする。

## 4 芸能文化科の学びの推進

芸能文化科の取組を核として、国際社会において、日本の伝統や文化を積極的にかつ自信を持って発信し交流できる人材を育成する。

- ア 国内唯一の学科である芸能文化科の専門科目の一層の充実を図るために、特別非常勤講師や大阪芸術大学等との連携を強化する。
- イ 様々なメディアを通じて、芸能文化科の教育内容や外部連携の内容が伝わるよう情報発信を行う。
- ウ 芸能文化科が長年に亘って行ってきた社会貢献により構築したネットワークを活用して、応援団的ネットワーク作りを推進する。

## 5 チーム学校のさらなる資質向上と学校の魅力発信

- ア 校内研修の充実や、校務の精選・効率化により、チーム学校のさらなるパワーアップをめざす。
- イ 「ともに育ち二兎を獲る」学校としての教育実践をHPや学校ブログを活用し、広く発信する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「授業を受けることで知識が増えたり、技術が身についたりする」については、生徒向けでは89%（R1:87%）と2ポイント増加した。</li> <li>○「ICTを使った授業はわかりやすい」については、82%（R1:82%）と昨年度と同じ割合であったが、教員向けの同項目の質問は、87%（R1:82%）と5ポイント増加した。ICT機器を活用した授業の定着が昨年よりもさらに進み、効果的な授業を実施できている。</li> <li>○「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」については生徒向けでは88%（R1:85%）と3ポイント増加した。一方、教員では73%（R1:79%）と6ポイント減少した。教員と生徒の認識にやや差があることから、教員研修等のさらなる充実を行う。</li> </ul> <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」については、生徒は90%（R1:87%）、保護者向けも「進路について適切な指導を行っている」については82%（R1:84%）、教員は「一人ひとりにきめ細かい指導している」86%（R1:85%）と8割以上の関係者が高評価をしている。進路指導については学校目標でもある『第一希望の進路の実現』を達成するためにも継続した方向性での取組を実施していく。</li> </ul>	<p>①第1回（6/26）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業見学後、令和元年度学校評価と令和2年度学校経営計画等について <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナ禍の中で教員の負担もあるが、生徒達の不安を取り除くよう対策を講じてほしい。</li> <li>・生徒への見守りをしっかりとしてほしい。</li> </ul> </li> </ul> <p>②第2回（11/21）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和2年度学校経営計画の進捗状況の報告及び校内見学 <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末の整備によって、改善されていく課題があるので、関係団体でも支援していく</li> <li>・新型コロナの影響で不利益にならないように進路指導にも力を入れてほしい。</li> </ul> </li> <li>○令和3年度使用教科書選定</li> </ul>

府立東住吉高等学校

<p><b>【生徒指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学校生活についての先生の指導は納得できる」については、生徒向けでは78% (R1:75%)、保護者向けでは84% (R1:85%)であり、今後も生徒と保護者の両者の理解を得ながら、生徒指導を進めていく。</li> <li>○保護者は「家庭連絡や意思疎通がきめ細やかで相談に応じてくれる」が79% (R1:75%)で4ポイント上昇した。一方で教員の「家庭との緊密な連携ができていく」が81% (R1:88%)であるため、保護者の立場にたった相談対応をさらに推進する。</li> <li>○「いじめについて困ったことがあれば真剣に対応」については、生徒は84% (R1:84%)、保護者は86% (R1:87%)、教員は77% (R1:95%)であったことから、さらに組織的にきめ細かい迅速な事象対応を行っていく。</li> </ul> <p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「校内研修は教育実践に役立つ内容」について、教員は74% (R1:87%)と13ポイント減少している。授業力アップや生徒支援の研修など、5年以上継続しているため、次年度以降、研修内容や研修体系など、さらなる工夫をしていく。</li> <li>○「授業公開などに参加」について、コロナ禍で保護者に学校に来校してもらえらる機会が減っているため、保護者は41% (R1:79%)と大幅に減少した。今後はコロナ禍でも保護者に学校教育に参加してもらう工夫をしていく。</li> <li>○「学校は日常の取り組みについて、ホームページ等で情報提供」については、保護者は82% (R1:76%)で6ポイント増加した。ライデンメールやブログ発信を充実した結果である。今後は、ホームページを開いたときに、どこにどのような情報が掲載されているか、一見しただけでわかるような工夫をし、さらに学校の教育活動を発信していく。</li> </ul>	<p>③第3回(1/22)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和3年度学校経営計画の「めざす学校像」及び「中期的目標」の承認</li> <li>・新型コロナ禍の中においても学校経営計画の実現に向けて、学校とPTA、同窓会、後援会が一丸となってさらなる教育内容の充実をされたい。</li> </ul>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 進路を実現する確かな学力の養成	(1) 魅力ある授業づくり  (2) 進路実現のための取組  (3) 生徒の心身の健康の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 組織的な「授業力アップPT」の取組を継続し、次期指導要領を見据えた校内研修・研究授業を継続して行い、「ヒガスマスタンダード」の確立をめざす。</li> <li>② 「新指導要領対策PT」を継続し、新学習指導要領の研究と第一志望の実現に向けた新教育課程を完成させる。</li> <li>③ 志望校情報交換会を前期・後期に開催して、生徒の志望校に関する情報を共有し、第一希望の進路実現を学校として支援する。</li> <li>④ 大学や企業と連携し進学講演会などの行事を実施する。</li> <li>⑤ 自習室の運営や学習マラソンの実施、学習オリエンテーション、進路マップの導入及び学校経営推進費によるQAスペースの活用により、懇談・質問への対応強化を図る。</li> <li>⑥ 「授業力アップPT」が中心となり、生徒が意欲的に英語の4技能を伸ばす取組や授業の工夫を行う。</li> <li>⑦ 学年団、支援担当の状況共有を密にし、組織的な教育相談体制をさらに推進する。</li> <li>⑧ 早朝の立ち番、声掛けを強化し、進路実現に向けて、基本的な生活習慣を確立させる。</li> <li>⑨ 災害や重大な事象に備えた危機管理体制を確立するため、生徒・保護者への連絡体制のさらなる充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 校内PTによる組織的な授業づくり研修・研究授業を継続実施する。 「ICTによる授業工夫」の項目の評価80%以上を維持する。(R1:82%)</li> <li>② 学校教育自己診断における「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」の項目の評価85%以上を維持する。(R1:85%) 授業アンケート3.25以上 (R1:第1回3.23、第2回3.26)</li> <li>③ 国公立大学現役合格者数目標25/320名以上 (R1:28/360名) 関関同立現役合格者数100/320名以上 (R1:91/360名)</li> <li>④ 進学講演会を年3回以上実施</li> <li>⑤ 土、日も含め、7時から19時まで自習室開室を開室(学校休業日を除く)</li> <li>⑥ 継続的なリスニング対策授業を充実し、センター入試結果でのリスニング得点を全国平均の90%以上にする。(R1:87.4%) 英語学力調査の1・2年生平均スコアの4技能平均CEFR A2を継続する。(R1:CEFR A2)</li> <li>⑦ 生徒の相談体制を継続し、学校教育自己診断における教育相談の肯定的回答70%以上 (R1:68%) いじめアンケートと教員によるヒアリングを年2回以上実施し、いじめ対応についての肯定的回答は、生徒、保護者とも85%以上にする。(R1:生徒:84% 保護者88%)</li> <li>⑧ 遅刻数の10%減少 (R1:遅刻 3,567)</li> <li>⑨ ハザードマップや避難場所の周知を行うとともに、保護者・生徒への緊急メール・ブログの充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「主体的に学習に取り組む態度」の育成について、教員全体研修で共有後、教科ごとに研究授業後に研究協議を実施。成果報告、次年度の目標設定を全教員で共有。「オンラインPT」を中心にICTの活用が進んだ。 ・ICTによる授業理解(生徒)82%、(教員)87% (○)</li> <li>②新教育課程原案を完成。加えて上記実践により(生徒)「問題解決的な学習活動」は3ポイント上昇。観点別評価の実施に向けて校内研修をさらなる充実を行う。 ・問題解決的な学習活動(生徒)88%、(教員)73% (◎)</li> <li>・授業アンケート(第1回)3.27、(第2回)3.26 (○)</li> <li>③・国公立大学現役合格者数29/320名 (○) ・関関同立現役合格者数127/320名 (○)</li> <li>④外部産業と連携し、教員対象分析会を年5回実施、進学講演会を年3回実施。(○)</li> <li>⑤コロナ禍で自習室は3年生に限定したが、後期は、2年生専用の自習室を設け、自主学習をサポート。(◎)</li> <li>⑥リスニング講習、授業での継続的なリスニング演習、朝の英単語テスト、1年英語レシテーションコンテストの実施 ・共通テストでのリスニング得点：全国平均の91% (○) ・英語学力調査の1・2年平均スコアの4技能平均CEFR A2 (○)</li> <li>⑦担任会議において毎週生徒の情報共有を密にし、SCと連携しケース会議を実施。 ・学校教育自己診断の教育相談の肯定的回答63% (△)</li> <li>・いじめ対応についての肯定的回答(生徒)84%、(保護者)86%、(教員)77% (○)</li> <li>⑧「予鈴時には教室に！」キャンペーンを継続実施。加えて各学年の遅刻指導実施。 年度末遅刻者数3047 昨年度比14.6%減少 (◎)</li> <li>⑨地域のハザードマップ、避難所を緊急メールで保護者、生徒へ周知。内水氾濫を想定した水害による避難訓練を実施した。 ・メール登録(生徒)95%、(保護者)134% (◎)</li> </ul>

## 府立東住吉高等学校

2 自主活動の充実	<p>(1) 自主活動の充実</p> <p>(2) 外部連携・ボランティア活動の充実</p>	<p>① 体育祭の規律ある活動を継続し、生徒に集中と切替えの意識を徹底させるとともに、生徒会執行部、団活動、体育祭実行委員会における生徒による自主的な運営を充実する。</p> <p>② 芸能文化科生徒、部活動所属生徒及び共生推進教室生徒による異校種交流や地域連携、チャリティーマラソン、小中学生対象理科実験教室、クリーンアップキャンペーン等を継続して行う。</p>	<p>① 学校教育自己診断における学校行事の項目の肯定的回答 90%以上を維持する。</p> <p>② 学校教育自己診断におけるボランティアに関する項目の肯定的回答を 90%以上にする。(R1:87%)</p>	<p>① コロナ禍のため、体育祭は中止したが、文化祭、クラスマッチ、マラソン大会は実施形態を変更して実施。 ・学校教育自己診断の学校行事の肯定的回答 90% (R1:91%) (○)</p> <p>② コロナ禍のため、計画を変更し、実施した結果、生徒の学校生活満足度は、2ポイント上昇し 88% ・芸能文化科卒業発表会をライブ配信。 ・小学生対象理科実験教室を年4回実施。 ・美化委員がクリーンアップキャンペーンを実施。 ・チャリティーマラソンに約400名が参加し、ネパール、東北被災地に寄付。 ・ボランティア部が「チャリティームービープロジェクト」に参加。 ・学校教育自己診断のボランティアの肯定的回答 89% (R1:87%) (○)</p>
3 人権教育、キャリア教育、国際理解教育の充実	<p>(1) 人権教育の取組</p> <p>(2) キャリア教育の取組</p> <p>(3) 国際理解教育の取組</p>	<p>① 本校の「人権教育マップ」の計画に沿って、3年間通しての人権教育を実施するとともに人権講演会等の行事を定着させる。</p> <p>② 共生推進教室設置により、授業、行事、自主活動等において、地域と連携しながらともに学びともに育つ教育を推進する。</p> <p>③ 卒業後の進路を考えるためのキャリア教育の取組に加え、生徒の「書く力」「まとめる力」「発表する力」を伸ばす取組を実施する。</p> <p>④ PTA、同窓会、後援会と連携しながら海外スタディーツアーを実施する。</p> <p>⑤ 海外修学旅行を継続し、連携校への訪問と来訪の受入れなど、双方向の国際交流を図る。</p> <p>⑥ 英語でのコミュニケーション能力を高めるため、ホームルームの時間等を活用し、生徒による発表の機会を充実する。</p>	<p>① 生徒対象の体験的人権行事や教職員対象の人権研修の実施により、自己診断における人権教育に係る項目の生徒の肯定的回答 85%以上 (R1:84%)、教員の肯定的回答を 75%以上 (R1:72%)</p> <p>② 自己診断による「ともに学びともに育つ教育を実践」70%以上 (R1:項目なし)</p> <p>③ 「総合的な探究の時間」のシラバスに沿って計画的なキャリア教育を進める。 自己診断での「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」88%以上。(R1:87%)</p> <p>④ 海外スタディーツアー事後アンケートで満足度 90%以上を維持する (R1:100%)</p> <p>⑤ 自己診断アンケートで、国際交流の質問項目の肯定的回答 85%以上を維持する。(R1:86%)</p> <p>⑥ 英語レシテーションやスピーチのコンテスト等を充実する。</p>	<p>① 障がい者理解は、外部講師によるシッティングバレーの実演を実施。拉致問題、同和問題について集会を実施し、教職員・生徒の理解をさらに進める。 ・学校教育自己診断の人権教育の肯定的回答 (生徒) 89% (R1:84%) (◎) (教員) 65% (R1:72%) (△)</p> <p>② 授業、遠足、文化祭、クラスマッチ、学校説明会等を通じて「ともに学びともに育つ教育」を実践。 ・学校教育自己診断の「ともに学びともに育つ教育」の肯定的回答(生徒)86% (R1:81%) (保護者)88% (教員)81% (◎)</p> <p>③ 1年生ではSDGsについてのヒガスマイノベーションをクラス発表後、学年集会でクラス代表の発表及び表彰。2年生では理想の人物像についてクラスでのグループ発表した結果、生徒の肯定的回答は3ポイント上昇した。 ・学校教育自己診断での「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」90% (R1:87%) (◎)</p> <p>④ コロナ禍のため中止。(一)</p> <p>⑤ 台湾修学旅行を中止し、国内に変更。台湾とのWEB交流を企画中。 ・学校教育自己診断の国際交流の肯定的回答 71% (一)</p> <p>⑥ Google Classroom を活用し、課題配付を行い、レシテーションコンテストを実施した結果、過去3年間で一番高いレベルで実施することができた。(◎)</p>
4 さらなる資質向上と魅力発信	<p>(1) 教職員研修の充実</p> <p>(2) 校務の精選効率化</p> <p>(3) 学校の魅力発信</p>	<p>① 経験年数の多い教職員から少ない教職員向けに教員力アップにつながる教職員研修を計画的に実施する。</p> <p>② 共生推進教室の設置に伴い、授業改善などの校内研修を継続して行う。</p> <p>③ 校務の精選と効率化を組織的に行う。</p> <p>④ ブログ、ホームページ等での魅力発信を行うとともに、学校案内やリーフレットなどの作成により広く情報発信をする。</p>	<p>① 自己診断「校内研修は教育実践に役立っている」を引き続き 80%以上にする。(R1:87%)</p> <p>② 学校教育自己診断による「ともに学びともに育つ教育を実践」70%以上《再掲》(R1:項目なし)</p> <p>③ 時間外勤務時間のさらなる5%以上減少をめざす。(R1:前年度比13%減少)</p> <p>④ リーフレットの作成・配付や説明会への参加等により、普通科・芸能文化科について、昨年度並みの志願倍率を維持する。(R2:普通科1.23倍、芸能文化科1.05倍)</p>	<p>①② 授業力アップ研修に加えて、生徒及び保護者に寄り添った相談対応、同和問題、共生推進教室について教職員研修を実施。 ・学校教育自己診断の校内研修の教員の肯定的回答 74% (△) ・学校教育自己診断の「ともに学びともに育つ教育」の肯定的回答(生徒)86% (◎)</p> <p>③ 毎月、時間外勤務の個票の配付及び半期における個人の前年度比較データを配付。職員会議で前月のデータ及び4月からの合計、昨年度比を提示し、注意喚起。 ・日直、自習室当番、駐輪当番等を勤務時間の変更で対応 ・年度末までの時間外勤務時間 11.4%減少 (◎)</p> <p>④ 校長によるブログ配信3月末まで 100回 芸能文化科生徒による中学校訪問を実施。 R3:普通科1.48倍、芸能文化科0.85倍 (△)</p>